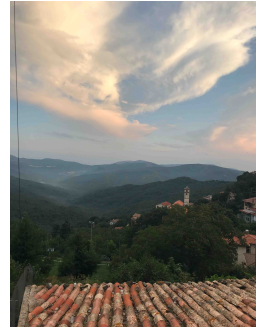


ひよこ新聞

最近のニュースで厚生労働省による重要な統計データの不正問題の調査で『長年この不正な調査が続き、その間担当者の中には不正と気づいた職員もいた。だが、「変えた方が良かったが、統計委員会や審議会にかけると問題がある」などとして、放置されてきたとした』報告されました。そして組織的な関与、隠蔽はなかったとされています。気づいても放置されるのは気づいていないより悪いでしょう。



インフルエンザ流行

先週から七飯町の小中学校、今週から函館市内の学校で新学期が始まりました。

冬休み中も少なくないインフルエンザ患者の発生が見られていたので、普通ならこれから流行することが予想されます。けれど、最近（ここ数年）は予想以外のことが起きています。これは人の移動、抗インフルエンザ薬の普及…などが関係しているのかもしれませんが。

ここまでの流行の特徴は1) A型しか流行っていない（昨年はA型とB型が同時に流行っていました）、2)（ここまでは）昨シーズン流行していないところ（学校、園）に感染者が多い。3) 大人での感染が目立つ。親から子供にうつるパターンも多いです。4) 症状は個人で差が大きいけれど、高熱の患者が多く、不穏な言葉・行動も目立つ…などです。いずれにしてもこれから1ヶ月間ぐらいは最も警戒すべき（＝全力で予防に努める）時期です。



ワクチンの

話：出来るだけ受けましょう

いくつかの記事を紹介します。今の日本の状況。最近話題になっている風疹、麻疹の流行について考えてみてください。ワクチン接種により現在の生活がどれほど守られているかを再認識しましょう。

女児と20代女性が感染 三重のはしか、30人に

昨年末に津市で開かれた民間団体の研修会参加者が、相次いではしかを発症している問題で、三重県は20日、感染者と接触した同市の4歳以下の女児と、鈴鹿市の20代女性が感染したと発表した。一連の感染で幼児の発症は初めて。県内の感染者は30人となった。岐阜県や名古屋市を含めると計35人。中日新聞 1月20日

「世界の健康に対する脅威」トップ10に『ワクチン忌避』が選ばれる

世界保健機構（WHO）が発表。非科学的な論拠から子どもなどにワクチンを打たせない状況が世界各地で起きています。ワクチンの予防接種を嫌がることは、デング熱やエボラ出血熱などと並ぶくらい、世界の健康に対する脅威となっている。そんな声明を世界保健機構（WHO）が出し

た。2019年に注目される「世界の健康に対する10の脅威」の一つとして、「ワクチン忌避」を挙げた。ワクチンの予防接種によって麻疹やポリオ、子宮頸がんの原因になるHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を予防することができる。日本国内では、科学的には裏付けされていないものの「副反応に懸念がある」という声上がり、**厚労省が2013年6月に子宮頸がんワクチンの積極的推奨を差し控えた。**これにより**ワクチン接種率は約70%から1%未満へと接種率が著しく下がった。**こうした日本の状況について、WHOは以前から「弱い証拠に基づいた政策決定」と憂慮している。（ひよこ：弱い根拠、これは一体なんなのか！）

WHOの推計によると、ワクチンによって年間200～300万人の命が救われている。世界的にワクチン接種の普及率が上がれば、さらに150万人ほどの命が救われる可能性があるという。2018年8月からワクチン接種に関する政令を廃止する法案を通したイタリアでは、麻疹患者が急増。ヨーロッパ全体でも、過去10年で最悪の感染者数を記録した。Huffingtonpost.jp（2019年01月20日）

イタリア旅行紹介：トナーラ（Tonara）

サルディニア（島）ではレンタカーを利用して移動しました。南のキャリアリに2泊したあと北に移動し、3泊目は中央の山岳地帯にポツンある人口約2300人のトナーラ（Tonara）という村のB&Bに泊まりました。文字通り「イタリアの小さな村」でした。夕食は地元料理を食べ、地元の人たちに触れることができました。夜はB&B経営の家族、泊まり客と夜遅くまで（飲めない）ワインを飲みました。何も無いような村だけど、昔ながらのイタリア（の家族）に触れたような気がしました。

ひよこ絵本館 388回

《せかいはてって どこですか？》

井戸の中が最高に幸せと信じて暮らしていたのに井戸が枯れてカエルの彼は悩みました。頑張って井戸から外の世界に飛び出した後のカエル君は自分の心に正直にまっすぐ生きて行きます。以前よりさらに幸せそうなカエル君。読んでいるうちに心がワクワクしてきます。悩んでいる時は少し遠くを見るようにと背中を押してくれる絵本です。優しい色使いのイラストも癒されます。小学生位からがおすすめです。（Yすぎやま）

